



学校規模の適正化と適正配置にかかる 令和3年10月 アンケート結果

令和3年10月3日に手熊小ランチルームにおいて市教育委員会による学校規模の適正化と適正配置にかかる説明会を開催しました。

説明会では、市の統廃合の方針、現在の市内全体の状況、手熊小学校区の今後の児童数の推移の説明と事前に募集した質問事項へご回答をいただきました。

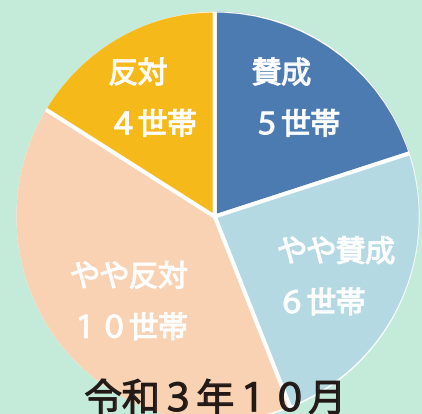
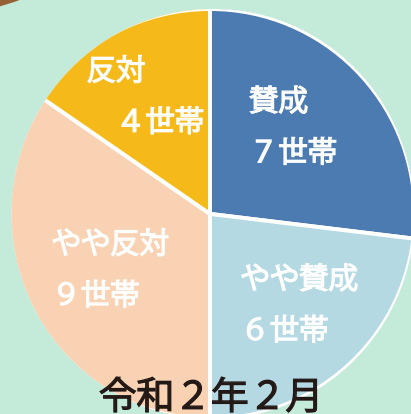
(質問事項については、別途文書で市教育委員会より回答を送付いただきましたので併せて配布させていただきます。)

また、前回の令和2年2月に実施したアンケートから1年半以上（保留の3年間の約半分の期間）が経過し、保護者の入れ替わりもあったことから、再度アンケートを実施し、現在手熊小学校に通学する全25世帯からご回答をいただきました。



アンケート結果

賛成 5世帯 (20%)
 やや賛成 6世帯 (24%)
 やや反対 10世帯 (40%)
 反対 4世帯 (16%)



アンケートの結果については、前回から大きく変動はありませんでしたが、賛成・反対どちらの意見の方からも、子どもたちの安全・安心な登下校について心配する意見が非常に多く上がっており「学校統廃合は保護者や子どもたちの希望ではなく、行政の都合で行うものであることを踏まえ、市の方針とは異なるが、柔軟な対応でスクールバスを導入してほしい。」や「保護者の意見をしっかり市へ伝えて、登下校の安全などの課題を解決しないと進んでいかない。」という意見もありました。

育友会としましても、このアンケート結果から「登下校の安全」や「跡地活用」については市と協議を行い、地域との協議については、来年度から再開予定の手熊地区まちづくり協議会の中で地域の声も聞きながら、その意見を育友会でも共有していきたいと思っております。

なお、アンケートの詳細につきましては、まとめて次項に記載しますのでご覧ください。

賛成意見の理由



少人数による向上心の少なさを心配している。(大人数でいろいろな思考や価値観、人間関係など学んでほしい。)

複式学級をなくしてほしい。(少人数なのに学力テストでレベルが低い。)

中学校で急に大人数に圧倒されるより小学校のうちから慣れてほしい。

子どもたちは柔軟ですぐ仲良くなれると思うが通学のバスは心配。

小規模校を運営する維持費を減らし、その分で教育の充実や住民税を減額してほしい。

少数だからいろんな意味で保護者が多忙になる。(子どもの自立を妨げる。親が出しゃばりすぎ。)

反対意見の理由



子どもの命に直結する通学の安全の解決なくして統廃合はできません。(一番心配な通学の課題がまったくクリアできていない。)

登下校が心配です。市は既存路線を活用と言っていますが、他のお客さんとのトラブルも不安です。

通学は登校だけでなく下校もあり中学へ通う上の子の通学をみても、バスの便数不足は明らかです。

小学校は地域活性化の拠点として大きな役割を担っている。小学校がなくなると地域と子どもとの交流がなくなって地域が廃れていってしまう。

廃校後の校舎管理が市の説明では部署が異なるとの理由で説明がなく、不明確すぎる。

統廃合した後のいじめが心配です。(大人数の中での学びに不安がある。)

少人数による学びのメリットが大きいと思う。手熊小にきて子どもが外で元気に遊ぶようになった。

創立145年という歴史を持つ手熊小は、児童数は多くはないが子どもたち、保護者に大変愛されている学校だと思う。(みんなが主役で地域も協力的な手熊小が大好きです。)

(転向により3校目だが) 子ども自身が、手熊小が一番良いと主張するため。

我が子にも自分が卒業した学校でのびのび育ってほしい。

自由記載欄の意見



学校統廃合には、メリット・デメリットどちらもあるので、全員が統廃合賛成ということは難しいと理解しているが、早く統廃合賛成の意見が多くなれば良いと思う。

保護者は通学の安全面が心配だから、その課題を解決して早く進めてほしい。

学区統廃合の話は、保護者や子どもたちが希望して進めているものではない。行政の都合で行っている点をふまえ、せめて子どもの命にかかわる登下校はスクールバスを導入してほしい。

登下校の際の安全面、乗り遅れた時や事故等による遅れなど、子どもたちがどう判断し、どのような行動をするのか心配です。

バス停に学校やバス会社と直接つながる電話などあったらいいと思う。

手熊バス停の安全の確保(移設)は、いいアイデアだったと思う。

手熊小学校が統廃合すると夏祭りや手熊くんちなどの地域行事や防犯パトロールなど、桜が丘が主体となってしまうため、手熊地区で開催されなくなりそうで心配。